

平成 29 年 10 月 11 日
特定非営利活動法人 ジャパン・フィルムコミッション

第 3 回 JFC アワードの受賞者が決定!!!

最優秀賞は『広島フィルム・コミッション』

(アニメーション映画『この世界の片隅に』の制作支援により)

「ジャパン・フィルムコミッション (JFC)」は、10 月 5 日、沖縄市において、『第 3 回 JFC アワード』を開催し、最優秀賞に広島フィルム・コミッション、優秀賞に宇部フィルムコミッションほか 4 フィルムコミッション(FC)、特別賞 1 名を選出し表彰した。

本アワードは、全国各地で優れたロケーション資源の開発や市民と一体となった撮影支援、映像作品の活用による地域活性化に向けて日々奔走する FC 等を表彰するもので、これを機に、FC の意義や活動内容を広く国民に知ってもらい、撮影への理解・協力を促進することで、さらなる撮影環境の向上や FC 活動による地域の活性化を図るものです。

【第 3 回 JFC アワードの概要】

- (1) 日時 平成 29 年 10 月 5 日(木) 19:00
- (2) 会場 コザ・ミュージックタウン 1F 音楽広場 (沖縄市上地 1 丁目 1 番 1 号)
- (3) 受賞 FC・個人 (※受賞理由は別紙のとおり)
 - ① 最優秀賞 広島フィルム・コミッション
 - ② 優秀賞 東京ロケーションボックス・宇部フィルムコミッション・長崎県フィルムコミッション・神戸フィルムオフィス・萩ロケ支援隊
 - ③ 特別賞 寺脇 研
- (4) 選定対象
 - ① 最優秀賞・優秀賞
平成 28 年度 (2016.4~2017.3) 公開の「映像作品※1」を支援した「地域 FC 等※2」
※1 : 映像作品には映画、ドラマ、CM、音楽プロモーションビデオを含む
※2 : 地域 FC 等には、フィルムコミッション、並びにロケ支援団体、都道府県単位 の協議会組織が JFC 加盟の場合はその構成団体 (行政) も含む
 - ② 特別賞
日本の撮影環境の向上や映像を活用した地域活性化に貢献した個人・団体等
- (5) 選考項目
 - ① 素晴らしいロケーションを発掘した FC
 - ② 大規模撮影やこれまでにない工夫を実現した FC
 - ③ 支援作品を地域の PR にうまく活用した FC
 - ④ 支援作品を地域のまちづくりにうまく活用した FC
- (6) 選考方法
 - ① 各地の地方ブロックから自薦・他薦により候補 FC を募集
 - ② 上記選考項目に関して業界関係団体や有識者のヒアリング結果を踏まえ選考

【ジャパン・フィルムコミッション(JFC)とは?】

全国の FC やロケ支援団体並びに製作関係団体など約 150 の会員からなる日本で唯一の映像支援団体のネットワーク組織で、日本の撮影環境の発展と地域振興を目的に、国内外の映画・映像作品の製作支援をはじめ、FC 等の人材育成支援、映像産業の振興、映像文化の普及、地域資源の評価などの資する事業等を行う組織です。

第3回 JFC アワードの各賞受賞者と選定理由

(総評)

フィルムコミッション(FC)が日本で設立されて17年が経過し、今では多くの映像作品に各地のFCが関わり、撮影支援はもとより、地域の撮影環境整備、近隣FCとの連携強化による支援体制の広域化、作品と地域の効果的なPRの企画・実施など、様々な活動に積極的に取り組んでいる。

このような活動の中、各地域のFCがそれぞれの地域の特性や実情を踏まえた撮影支援や、作品と地域の魅力にシナジー効果を生むようなPR活動に取り組み、その結果、素晴らしい作品の制作や、映画ファンへのアピール強化などを実現している。各賞の受賞理由は、以下のとおりである。

【最優秀賞】1FC

★広島フィルム・コミッション(広島県広島市) (アニメーション映画『この世界の片隅に』の制作支援)

FCとして、2011年からロケハン案内、資料収集、録音などの制作サポートを行った。

そして監督をはじめ、製作者と地域のアニメ・映画関係者等へ繋いで、地域の作品づくりを地元の人が支援するというムーブメントを実現させた。

また、現在でも、コンスタントにイベントやロケ地めぐりなどを開催しており、監督監修書き下ろしのロケ地マップの発行なども話題を呼び、広島ファンの増加に大きく貢献した。FCとして、アニメーション支援の好事例として高く評価された。

【優秀賞】5FC

★東京ロケーションボックス(東京都) (映画『シン・ゴジラ』の撮影支援)

大田区の蒲田駅前での大規模撮影を、都、区、警察署、商店街振興組合、路線バス、鉄道等の公共交通機関と調整して実現させた。エキストラ300人、劇用車10数台、カースタントありで、大通り2~300mを朝7:00~昼11:00完全封鎖して撮影。都内で実現した大規模撮影の代表作となった。また、都庁の防災司令室も貸し切って重要なシーンを撮影した。

★宇部フィルムコミッション(山口県宇部市) (映画『サバイバルファミリー』他の撮影支援)

撮影が困難な高速道路の設定として、全長約6Kmある高架化された宇部湾岸道路を発掘し、地域住民や地元企業などとの調整を行い、多くの作品を誘致。映画「サバイバルファミリー」を皮切りに映画やCMなどのオフアワーが殺到している。この相乗効果で山口県近隣のロケも増加している。

★長崎県フィルムコミッション(長崎県) (フジテレビSPドラマ『モンタージュ 三億円事件奇譚』撮影支援)

世界文化遺産となった長崎市の端島(軍艦島)の立ち入り禁止エリアでの撮影を粘り強い交渉で実現した。また、撮影後は「モンタージュ 三億円事件奇譚ロケ地さるくコース」というガイド付きロケ地めぐりを実施し、軍艦島ツアー客も増加。また、あまり撮影されていなかった「ばってん坂」という坂がドラマをきっかけに有名になり、大手企業CMなど撮影が増えている。

★神戸フィルムオフィス(兵庫県神戸市) (映画『デスノート Light up the New world』の撮影支援)

警視庁デスノート対策本部として、現在も使用している下水処理場に、一大セットを組んで撮影した。さらに、神戸市が人工島を建設する際に使用していたトンネルを映画等の撮影で積極的に利用している。また、神戸市の繁華街、元町1丁目のスクランブル交差点を、渋谷のスクランブル交差点の設定で、夜中3日間封鎖し、エキストラを述べ1500人動員して撮影した。日頃から市役所の各部署との連携を深め、地域の支援が得られやすいよう動いた結果が認められた。

★萩ロケ支援隊(山口県萩市) (映画『八重子のハミング』の撮影支援)

地元の方の手記を元にした作品で、商業映画を中心に撮ってきた佐々部清監督が、構想から7年の時を経て、ほぼ自主制作に近い形で映画化した作品。

地元が舞台となる普遍性のある作品であり、予算規模やスタッフの数など一般的な商業映画とは違うカタチで制作されることから、市民・企業・団体が一体となって全面的に支援した。FCも制作スタッフの役割にまで手を広げて積極的に支援した。今でもロングランになっており、情報誌や女性誌でも地域が取り上げられるきっかけになった。地域と一緒に制作した作品として、作品が地元で根付いたことが表彰に繋がった。

【特別賞】団体及び個人

★個人：寺脇 研 氏

JFCの前理事長であり、JFC設立時からボランティアで運営継続等にご尽力頂いた。更に個人的には映画制作にも携わり、映像文化にも造詣が深いとして選出された。

以 上



(写真右手より)

優秀賞受賞	宇部フィルムコミッション	上原氏
〃	神戸フィルムオフィス	松下氏
最優秀賞受賞	広島フィルム・コミッション	西崎氏
優秀賞受賞	長崎県フィルムコミッション	横山氏
〃	東京ロケーションボックス	水谷氏
主催者代表	ジャパン・フィルムコミッション	田中理事長

<本件に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人 ジャパン・フィルムコミッション 担当：関根

Tel: 03-5643-5330 Fax: 03-5643-5331 E-mail: jfc@japanfc.org